

平成 18 年度土壤汚染対策法施行状況等に関する調査結果について



環境省は平成20年9月26日、平成 18年度の土壤汚染対策法の施行状況及び土壤汚染調査・対策事例等に関する調査結果について公表しました。

都道府県等が把握している昭和50年度から平成18年度までの土壤汚染調査の事例は、累計で6,208件であり、うち土壤環境基準又は指定基準に適合しない事例は、累計で3,264件でした。尚、平成18年度の調査事例は1,316件(法対象は266件)で、うち超過事例は687件(法対象は77件)でした。

これまでの超過事例3,264件を項目別に分類すると、揮発性有機化合物(VOC)(第1種特定有害物質)では、トリクロロエチレン(572件)が最も多く、次いでテトラクロロエチレン(507件)、シス-1,2-ジクロロエチレン(398件)、ベンゼン(312件)が多くなっており、重金属等(第2種特定有害物質)では、鉛及びその化合物(1,563件)が最も多く、次いで砒素及びその化合物(855件)、ふっ素及びその化合物(756件)の順に多い結果でした。

これらの汚染対策の実施内容については、重金属等では掘削除去を実施している事例がほとんどでしたが、VOC超過事例では原位置浄化(地下水揚水、土壤ガス吸引等)の方が掘削除去を上回る結果でした。

当社では、土壤汚染調査や土壤の分析を行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

資料 2008年9月26日付 環境省ホームページ

土壤環境箇所 明石康伸